

気ままに ブックトーク！

#5 「群ようこ作品を1冊」



第5回は、参加者のリクエストで群ようこ作品を1冊。気に入った・気になった本を読んで1冊持参し、感想を共有しました。いつもながら本の内容から発展してほかの話題もたくさん花が咲きました。



【群ようこ作品を1冊】

数多ある群ようこ作品。何を持参されたかワクワク。近々書籍化される『かえる生活』（朝日新聞出版の雑誌『一冊の本』に連載。2025年9月号掲載回で連載終了）。『かもめ食堂』（2006年、文庫版08年）。『れんげ荘〔れんげ荘物語Ⅰ〕』（2009年、文庫版11年）。『ゆるい生活』（2015年）。『いかがなものか』（2020年、文庫版23年）。なお、参加者5人のうち、2人は初群ようこ作品読書体験。それぞれ持ち寄った本の内容を簡単に紹介して、印象にのこった内容をシェアしました。

♣麻生市民館で10月4日（土）開催のブックカフェに参加予定。足をお運びください。

『れんげ荘』⇒キョウコさん（有名広告代理店を早期退職し、貯金で都内の古アパートれんげ荘に引越）に、「老婆心ながらお金がつづくか。おっとりしているし、すごく心配」。

『かもめ食堂』⇒主人公のサチエさん（宝くじがあたってフィンランド・ヘルシンキにかもめ食堂を開店）について、「ラッキーな人。一番印象に残ったのは、サチエさんが古武道を修得しているせいか、どんと構えているところ」。「映画で見ていたので本もと。ほぼ映画どおり。旅行したこともあるヘルシンキの街並みの描写がなつかしかった。売れないおにぎりへのこだわりが印象に残った」。

「〇〇生活」もある種シリーズ作品⇒『ゆるい生活』は、表紙デザインが漢方薬の袋で印象的。体調不良から漢方医にかかって変わった著者の暮らしを紹介。現在、70代になった著者が片付けなど最新の暮らしを紹介する『かえる生活』。

ヘンと感じたものについてのエッセイ『いかがなものか』の「スマホがないとなにもできない」。私も同じ！とご自身の体験も披露いただいたほか、同様の主旨の飛鳥圭介さんの東京新聞のコラムも紹介いただきました。

感想から発展した話題で一番盛り上がったのは「8時10分前に集合」問題。7時50分なのか、8時9分なのか？ まわりの方にぜひ聞いてみてください。



次回は、11月28日（金）13:30-15:30

【内容：戦後80年で1冊】（ドキュメンタリー、小説、写真集、マンガなどジャンルを問わず1冊持参）。次々回2月に取り上げたいテーマも相談します。

図書室ひろばは、予約なし・参加費無料の、気軽にみなさんが集える場所です。事業をやりたい方は、ぜひ岡上分館までお問い合わせください。